

(19) Japanese Patent Office
(11) Patent No. Sho55-54926
(43) Publication date: April 22, 1980
(54) Turbine polisher
(21) Patent Application No. Sho53-129096
(22) Application date: October 19, 1978
(72) Inventor: Nakazawa Satoichi, Kadoma city
(71) Applicant: Matsushita Electric Corporation, Kadoma city

1. Title of the invention

Turbine polisher

2. Claims

A turbine polisher, comprising: a connect pipe connecting to electric appliances such as electric cleaner, a turbine car rotated by a drawn air current, a turbine chamber having said turbine car therein and a suction nozzle installed at a portion thereof, and a rotatable wiping body driven by the axis of the turbine car, wherein the suction nozzle is in fluid communication with the space where the rotatable wiping body is mounted.

① 日本国特許庁 (JP) ② 特許出願公開
③ 公開特許公報 (A) 昭55-54926

④ Int. Cl.³
A 47 L 9/04
11/16

識別記号 延内整理番号
6748-3B
6354-3B

⑤ 公開 昭和55年(1980)4月22日
発明の数 1
審査請求 未請求

(全 2 頁)

⑥ ターピンボリッシャー

⑦ 特願 昭53-129096
⑧ 出願 昭53(1978)10月19日
⑨ 発明者 中澤敏一

門真市大字門真1006番地松下電器産業株式会社内

⑩ 出願人 松下電器産業株式会社
門真市大字門真1006番地
⑪ 代理人 弁理士 中尾敏男 外1名

明細書

1. 発明の名称

ターピンボリッシャー

2. 特許請求の範囲

電気機械等に接続する接続パイプと、吸引気流で回転するターピン車と、上記ターピン車を内蔵し、一方に吸込ノズルを設けたターピン車と、上記ターピン車の軸により駆動される回転巻き体とを設け、上記吸込ノズルを前記回転巻き体を配設した空間に通過させたことを特徴とするターピンボリッシャー。

3. 発明の詳細な説明

本発明は、電気機械等の吸引装置に接続して使用するターピンボリッシャーに関するもので、ターピン車により交換された機械力により、回転巻き体を回転させ、更に回転巻き体により引き抜ばれ充電池を電気機械等の吸引力で吸引することを目的としている。

従来のターピンボリッシャーは、吸引された空気が通路が2つあり、一方はターピン車内を

通過する通路、他方は回転巻き体近辺に通じ、電気機械を吸引する通路であり、この2つの通路の切替え調整により、風量を吸引する必要があり、面倒であるだけではなく、巻ききがら電気を吸引させようとすると空気流量が2つに分かれるため、ターピン車により交換される機械力が低下し、回転巻き体の回転数が低下するという欠点を有していた。

本発明は、上記発明の欠点を解消するもので、以下の実施例を前記範囲にもとづいて説明する。図において、1はターピン車を内蔵したボリッシャーの本体、2は木本体の外側に回転したパンペー、3は電気機械等の吸引装置に接続する接続パイプ、4はターピン車を内蔵したターピン室、5はターピン車の一部に設けた吸込ノズル、6はターピン車の両側に設けたターピン車軸、7はターピン車軸の両端に回転されたクーナーム、8は各クーナームと運動するクーナームホイール、9は各クーナームホイールと回転された回転巻き体11とを接続している。そして、上記回転巻き

特許 昭55-54926(C2)

本体11の回転方向は、それぞれ逆回転し、正面から見ると、内側に巻きむけような回転方向にしてある(図面に回転方向は省略)。この回転巻き体11を配置した空間13には前記した吸込ノズル6が連通している。6はマービン車輪アを駆動する歯車であり、ビス等でマービン車輪アに固定されている。又、回転巻き体11には、ブラシ、フェルト等を装着すればよい。

上記構成において、装置バイブロに接続すると、吸込ノズル6から空気が吸込まれ、上記吸込ノズル6で吸られた気流がマービン車輪アに衝突し、マービン車輪アを回転させた後、装置バイブロを通り接続機に吸込まれる。この時、マービン車輪アの回転は、マービン車輪アと回転したマービン車輪アから、ウォーム8により緩和され、回転巻き体11に伝達される。この時、回転巻き体11の回転により、巻体が、まき上げられるが、これら巻体は回転巻き体11の回転方向が互いに内側に回転するため、本体1底面中央に寄せられ、本体1底面に受けられた吸込ノズル6により吸込まれる。

このように本発明によれば、接続機等を接続すれば、回転巻き体を駆動した空間に吸込ノズルを連通させているから、簡単に床等の塵やダラシングによる汚れ落としをしながら、同時にそこで発生した塵埃を吸引することができるという効果を有するものであり、従来の問題を完全に払拭しているものである。

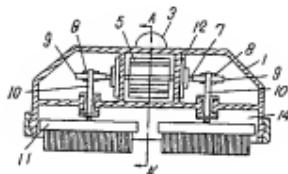
4. 図面の簡単な説明

第1図は本発明の一実施例におけるマービンボリュミナーの正面断面図、第2図は第1図のA-A線における断面図、第3図は第2図のB-B線における断面図である。

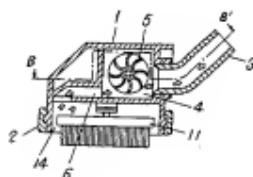
1 ……本体、2 ……装置バイブロ、4 ……マービン車輪ア、6 ……マービン車輪ア、6 ……吸込ノズル、11 ……回転巻き体

代理人の氏名 沢村士 中 用 敏 易 ほか1名

第1図



第2図



第3図

